

【 概 要 】

2013年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用者編】(第3回)

I 調査の概要

調査対象期間(2013年11月～2014年2月)に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものである。(回答数:905件)

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 「全期間固定型」の利用割合は31.7%に増加、「変動型」は37.1%に減少<p.2>

- ・「全期間固定型」の利用割合は、31.7%(前回調査[2013年7月～2013年10月]:25.3%)と増加
- ・「固定期間選択型」は、31.2%(前回調査:33.4%)と横這い
- ・「変動型」は37.1%(前回調査:41.3%)と減少している。

※本調査項目は、隔月に速報として公表しております「金利タイプ別利用状況」を、4か月ごとにまとめて確報として集計したものです。

2 今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)は「現状よりも上昇する」が減少

- ・今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)については、「現状よりも上昇する」が35.0%<p.9>(前回調査:42.5%)と減少し、「ほとんど変わらない」は48.5%(前回調査:43.1%)と増加

3 利用した住宅ローンを選んだ決め手は、圧倒的に「金利が低いこと」<p.14>

- ・利用した住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が60.6%(前回調査:65.7%)と圧倒的に多い。
- ・「将来の返済額を確定しておきたかったから」は横這いで、その順位は前回調査と同様に4位である。

本調査結果の詳細資料は、民間住宅ローン利用者の実態調査(<http://www.jhf.go.jp/files/300183105.pdf>)に掲載